

昨年とは少し違い、今年度は「コロナ禍」でもできることを模索しながら、学校での教育活動が少しずつ動きを見せた、そんな1学期が今日で終わります。4月から、皆さんの元気に過ごす姿に触れ、さまざまに制約される中であっても、私自身も、行事ができることや生徒の笑い声が響く学校に身を置ける幸せを感じた4か月でした。振り返ると、昨年かなわなかったことを挽回するがごとく皆さんの活躍を感じることができました。感動したことを3つあげるとすれば、1つ目は、落ち着いて授業に参加し、どの学年もどのクラスも学習に前向きに取り組むことができていること。2つ目は、3年生の修学旅行の代替えであった山梨への旅行や、1, 2年生のキャリアデーでの学習、クラスマッチ、文化祭と、それぞれの行事に全力で取り組む姿勢があったこと。最後に3つ目として、部活動での皆さんの大活躍です。文化祭の時も話しましたが、「学力テストなどでは数値化されない、子供の将来や人生を豊かにする力」である「非認知能力」が、集団行動の中で味わった困難・失敗・挫折を通して大いに培われたことと思われれます。ぜひ、この1学期での経験や感じたことを、次へのステップとして、繋げて欲しいと思っています。

「繋げる」というと、皆さんは最近、富に耳にする「SDGs」という言葉について、ここまで、自分自身が気にして何かをやってみようと考えたことはありますか？あらためて皆さんと考えたいと思います。SDGsとは「Sustainable Development Goals」の頭文字で、「持続可能な開発目標」という意味があります。2015年の国連サミットで採択され、2030年までの15年間で（あと9年になりましたが）達成する17の目標と169のターゲットがあげられています。つまり、私たちがこれからもこの地球で生き続けるために、豊かな自然や環境の中で、生命をつないでいくために何ができるかを考えようじゃないかということです。長野県は平成30年に全国で初めてSDGs未来都市に制定されました。ゴミの分別の徹底や少なさは日本一の長野県です。長寿県としても全国一ですね。長野県民は、きれいな信州を後世にしっかり残すために豊かな暮らしが持続するよう努力を積んできた県民性を持っていると自負できます。しかしこれは、SDGsの他の目標にも言えることですが、何か特別なことと捉えるのではなく、当たり前のことを当たり前にしてきたことが、見える化・見せる化によって明確になったともいえるかもしれません。つまり特別なことをやろうではなく今の行動をもう一度見直してみように繋がるかもしれません。資源や命には限りがありますが、持続可能な世の中を目指し自分の行動も見直してみたいと改めて感じます。ハンドソープなどを作っているユニリーバジャパンという会社では、ハローキティとコラボし、プラスチックがゴミにならない循環型社会を目指す取り組みをしており話題になっています。スターバックスのストロー問題にしても、身近なところでもSDGsの取り組みを積極的に見える化しているように、日本中の、世界中の企業や大学、また保育園から小中高校でも世界情勢を自分ごととしてとらえた取り組みを進めています。サステナビリティの暮らしを「あたりまえに」できるよう、皆さんには何ができますか？高校生の皆さんが身近な問題としてできることもいくつもあります。17の目標のうち、たとえば、5番：先日人権平和学習で鑑賞した「カランコエの花」のようにジェンダー平等の実現に向け皆さんができること、10番：人や国の不平等をなくすこと、そしてなんとい

っても、7番：エネルギーとクリーン問題 11番：住み続けられる街づくり、12番：つくる責任 つかう責任 といった、ゴミ問題を含めて皆さんに課せられている責任問題です。自分で使用したものは自分で責任を持って処分する。当たり前のことができない人がまだ数名いますね。ゴミのポイ捨て、どう考えますか。本校は古い校舎ですがここに生活する責任、この町で勉強できる感謝と責任、日本に住み続けていく責任、そういったことをぜひもう一度考えて欲しいです。そして、3年生を中心に、自分が進学あるいは就職したい企業はどんなSDGsの取り組みをしているのか、ぜひ調べ、面接での材料にして欲しいとも思います。

オリンピックが始まりました。平和の祭典であるオリンピックからもSDGsの視点から学ぶべきものはたくさんあります。夏休み明け、皆さんの行動に少しでも持続可能な社会を目指した行動が「見える化」してくれることがあれば、とても嬉しく思います。

夏休み中も、感染対策はしっかり行い有意義な時間を過ごしてください。

リフレッシュした元気な皆さんに会えることを楽しみにしています。